

【表紙】

【提出書類】 半期報告書

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2023年 8 月25日

【中間会計期間】 第115期中(自 2022年12月 1 日 至 2023年 5 月31日)

【会社名】 株式会社神戸新聞社

【英訳名】 THE KOBE SHIMBUN

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 高梨 柳太郎

【本店の所在の場所】 神戸市中央区東川崎町一丁目 5 番 7 号

【電話番号】 0 7 8 - 3 6 2 - 7 1 0 0 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員財務局長 南部 雅一

【最寄りの連絡場所】 神戸市中央区東川崎町一丁目 5 番 7 号

【電話番号】 0 7 8 - 3 6 2 - 7 1 0 0 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員財務局長 南部 雅一

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第113期中	第114期中	第115期中	第113期	第114期
会計期間	自 2020年 12月1日 至 2021年 5月31日	自 2021年 12月1日 至 2022年 5月31日	自 2022年 12月1日 至 2023年 5月31日	自 2020年 12月1日 至 2021年 11月30日	自 2021年 12月1日 至 2022年 11月30日
売上高 (千円)	19,990,196	19,134,634	18,571,260	39,490,568	38,050,144
経常利益 (千円)	1,530,718	1,521,257	540,550	2,338,466	2,008,455
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益又は 親会社株主に帰属する 中間純損失() (千円)	963,486	950,726	933,491	1,454,779	1,236,509
中間包括利益又は 包括利益 (千円)	1,106,142	1,095,620	869,075	1,779,658	1,402,461
純資産額 (千円)	23,702,313	25,623,877	25,019,230	24,361,381	25,919,243
総資産額 (千円)	64,850,987	62,654,163	61,364,605	61,756,683	60,014,996
1株当たり純資産額 (円)	1,812.35	1,967.74	1,908.27	1,870.13	1,989.47
1株当たり中間(当期)純利 益金額又は1株当たり中間 純損失金額() (円)	80.29	79.23	77.79	121.23	103.04
潜在株式調整後1株当たり 中間(当期)純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	33.5	37.7	37.3	36.3	39.8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,352,807	2,510,803	2,588,497	3,852,563	2,631,537
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	3,840,245	1,152,902	270,759	5,716,645	1,590,121
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	5,452,492	374,403	319,300	3,237,470	2,643,532
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高 (千円)	13,412,711	11,804,543	11,855,968	10,821,045	9,218,929
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	1,344 (278)	1,315 (274)	1,268 (278)	1,324 (278)	1,288 (287)

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第114期中間連結会計期間の期首から適用しており、第114期中及び第114期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第113期中	第114期中	第115期中	第113期	第114期
会計期間	自 2020年 12月1日 至 2021年 5月31日	自 2021年 12月1日 至 2022年 5月31日	自 2022年 12月1日 至 2023年 5月31日	自 2020年 12月1日 至 2021年 11月30日	自 2021年 12月1日 至 2022年 11月30日
売上高 (千円)	11,544,777	10,576,239	9,813,574	22,933,244	20,502,171
経常利益 又は経常損失 () (千円)	843,716	831,457	19,721	959,552	655,382
中間(当期)純利益 又は中間純損失 () (千円)	642,140	627,872	1,152,373	743,227	503,631
資本金 (千円)	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000
発行済株式総数 (株)	12,000,000	12,000,000	12,000,000	12,000,000	12,000,000
純資産額 (千円)	11,309,083	12,226,050	10,965,324	11,397,731	12,129,877
総資産額 (千円)	35,656,906	34,082,852	32,421,535	33,095,637	31,463,471
1株当たり配当額 (円)				2.5	2.5
自己資本比率 (%)	31.7	35.9	33.8	34.4	38.6
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	489 (103)	485 (94)	472 (99)	482 (100)	477 (98)

- (注) 1 中間連結財務諸表を作成しており、中間財務諸表に1株当たり純資産額、1株当たり中間純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額を注記していないため、1株当たり純資産額、1株当たり中間(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額の記載を省略しております。
- 2 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第114期中間会計期間の期首から適用しており、第114期中及び第114期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当中間連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2023年5月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
新聞・雑誌・書籍等の発行印刷・販売業	1,102 (227)
放送業	130 (51)
貸室業	17 (-)
その他の事業	19 (-)
合計	1,268 (278)

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数（アルバイト、キャリアスタッフ、人材会社からの派遣社員を含む。）は、当中間連結会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

2023年5月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
新聞・雑誌・書籍等の発行印刷・販売業	472 (99)
放送業	- (-)
貸室業	- (-)
その他の事業	- (-)
合計	472 (99)

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数（アルバイト、キャリアスタッフ、人材会社からの派遣社員を含む。）は、当中間会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

(3) 労働組合の状況

労働組合との間に特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 経営方針・経営戦略等及び経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当中間連結会計期間において、当社グループの経営方針・経営戦略等又は経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等について、既に提出した有価証券報告書に記載された内容に比して重要な変更はありません。

また、新たに定めた経営方針・経営戦略等又は経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等はありません。

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当中間連結会計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について、重要な変更はありません。

また、新たに生じた優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題はありません。

2 【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、当半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当中間連結会計期間における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当中間連結会計期間中に、コロナウイルス感染症が5類に移行し、閉塞感が少し薄らぎましたが、ロシアのウクライナ侵攻は500日を超えても先行きは不透明です。さまざまな物の値段が上がり、企業も家計も大きな負担を強いられています。一部の企業では物価高を補うために賃上げを実施しましたが、ほとんどの企業にそのような余力はなく、おのずと財布の紐は固くなる一方です。

このような状況が加わって、新聞業界はますます厳しい状況です。販売収入の基礎になる部数の減少は止まりません。2023年5月に全国の日刊紙が発行した朝刊部数は26,188,910部で前年と比べて2,017,055部減（7.2%減）となっています。コロナ禍前の2019年の朝刊部数は33,781,765部あり、22.5%の大きな落ち込みです（日本ABC協会調べ）。2022年の日本の総広告費は前年比104.4%と伸長しましたが、昨年、7年ぶりに前年を上回ったマスコミ四媒体広告費は97.7%と再び前年を下回りました。なかでも新聞広告費は前年比96.9%と平均を下回る厳しさです。またインターネット広告費の中のマスコミ四媒体由来のデジタル広告費は昨年に続いて好調でしたが、コロナ禍による巣ごもり期間が終了し、インターネットとの接触機会が減ったことやGAF A各社の業績悪化とリストラ、ユーチューバーの収入減少などで表面化している構造変化もあって失速傾向です。その上にロシアのウクライナ侵攻で石炭価格が高騰し、あおりを受けて、新聞の主な材料である用紙の価格が大幅に上りました。

当中間における連結決算は、神戸新聞社を含む連結12社中7社が前年より減収です。売上高は、前年比2.9%減です。とりわけデジタル関連収入の落ち込みが大きく、神戸新聞社、京阪神エルマガジン社などが影響を受けました。また用紙の値上げ、電気代などの高騰も負担となって、営業利益、経常利益ともに大幅な減益です。このような状況に加えて、神戸新聞社が定年前早期優遇退職を募り、割増退職金を支給することを決定しました。この結果、連結決算を開始してから初めての税金等調整前中間純損失になりました。

この結果、売上高が18,571,260千円（前年同期比2.9%減）となり、利益については営業利益が501,279千円（同66.5%減）、経常利益が540,550千円（同64.5%減）、親会社株主に帰属する中間純損失が933,491千円（前年同期は親会社株主に帰属する中間純利益950,726千円）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(新聞・雑誌・書籍等の発行印刷・販売業)

新聞・雑誌・書籍等の発行印刷・販売業におきましては、売上高は14,252,557千円(同5.0%減)となりました。また、営業損失は304,874千円(前年同期は営業利益708,565千円)となりました。

(放送業)

放送業におきましては、売上高は2,783,135千円(同5.3%増)となりました。また、営業利益は232,851千円(同3.8%減)となりました。

(貸室業)

貸室業におきましては、売上高は1,431,684千円(同2.2%増)となりました。また、営業利益は546,161千円(同0.1%減)となりました。

(その他の事業)

その他の事業におきましては、売上高は103,882千円(同22.2%増)となりました。また、営業利益は26,590千円(前年同期は営業損失952千円)となりました。

資産は、前連結会計年度末に比べ1,349,609千円増加し、61,364,605千円となりました。負債は、前連結会計年度末に比べ2,249,622千円増加し、36,345,375千円となりました。純資産は、前連結会計年度末に比べ900,013千円減少し、25,019,230千円となりました。

キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における中間連結キャッシュ・フローは、営業活動で2,588,497千円の増加となりました。これに対して、投資活動で270,759千円の減少、財務活動で319,300千円の増加となったことにより、当中間連結会計期間末の現金及び現金同等物(以下、資金という)は11,855,968千円(前年同期は11,804,543千円)となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は2,588,497千円(前年同期は2,510,803千円の獲得)となりました。これは主に減価償却費によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用した資金は270,759千円(前年同期は1,152,902千円の使用)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は319,300千円(前年同期は374,403千円の使用)となりました。これは主に長期借入による収入によるものであります。

生産、受注及び販売の実績

当社グループは、受注生産形態をとらないものが多く、セグメントごとに生産規模及び受注規模を金額あるいは数量で示すことはしておりません。

販売実績

当中間連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同期比(%)
新聞・雑誌・書籍等の発行印刷・販売業	14,333,638	5.0
放送業	2,911,282	5.9
貸室業	1,436,307	2.3
その他の事業	224,857	9.0
合計	18,906,086	2.8

- (注) 1 金額は売上高によっており、セグメント間の内部振替消去前の数値によっております。
2 主要な販売先に、総販売実績の100分の10を超える相手先はありません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

当中間連結会計期間の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当中間連結会計期間末の資産は、61,364,605千円(前期末比2.2%増)となりました。これは主に現金及び預金が増加したためであります。

当中間連結会計期間末の負債は、36,345,375千円(同6.6%増)となりました。これは主に未払費用が増加したためであります。

当中間連結会計期間末の純資産は、25,019,230千円(同3.5%減)となりました。これは主に親会社株主に帰属する中間純損失933,491千円を計上したためであります。

当中間連結会計期間は、売上高は、デジタル収入などの減少で前中間連結会計期間に比べ563,373千円減収の18,571,260千円(前年同期比2.9%減)、売上原価は、巻取用紙費増加などで前中間連結会計期間と比べ460,066千円増加の14,604,091千円(同3.3%増)、販売費及び一般管理費は、給与及び手当などの減少で前中間連結会計期間に比べ27,738千円減少の3,465,889千円(同0.8%減)となりました。これらにより経常利益は、前中間連結会計期間に比べ980,707千円減益の540,550千円(同64.5%減)となりました。

特別利益は固定資産売却益により1,402千円を計上、特別損失は割増退職金により931,969千円を計上しました。

この結果、親会社株主に帰属する中間純損失は933,491千円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純利益950,726千円)となりました。

キャッシュ・フローの状況の分析については「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

経営成績に重要な影響を与える要因については「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」をご参照ください。

資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、製造費用、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、設備投資等によるものであります。

短期運転資金は自己資金及び金融機関からの短期借入を基本としており、設備投資等の調達につきましては、金融機関からの長期借入を基本としております。

なお、当中間連結会計期間末における有利子負債の残高は、22,206,998千円となっております。また、当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、11,855,968千円となっております。

4 【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【主要な設備の状況】

当中間連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

2 【設備の新設、除却等の計画】

前連結会計年度末において、計画中又は実施中の重要な設備の新設、除却等はありません。

また、当中間連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (2023年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (2023年8月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,000,000	12,000,000	非上場	(注) 1, 2
計	12,000,000	12,000,000		

(注) 1 単元株式数は1,000株であります。

2 当社の株式は譲渡制限株式であり、株式を譲渡するには取締役会の承認が必要となります。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の状況】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2022年12月1日～ 2023年5月31日		12,000,000		600,000		10,034

(5) 【大株主の状況】

2023年5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合(%)
神戸新聞社従業員持株会	神戸市中央区東川崎町1丁目5-7	4,437	36.97
川崎重工業株式会社	東京都港区海岸1丁目14-5	500	4.16
阪急阪神ホールディングス株式会社	大阪市北区芝田1丁目16-1	460	3.83
津川合名会社	神戸市東灘区鴨子ヶ原1丁目7-2	366	3.05
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1-2	260	2.16
出光興産株式会社	東京都千代田区大手町1丁目2-1	258	2.15
JFEスチール株式会社	東京都千代田区内幸町2丁目2-3	245	2.04
株式会社竹中工務店	大阪市中央区本町4丁目1-13	200	1.66
日本毛織株式会社	神戸市中央区明石町47	160	1.33
神戸新聞扶助会	神戸市中央区東川崎町1丁目5-7	159	1.32
計		7,045	58.71

(注) 所有株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,848,000	11,848	
単元未満株式	普通株式 152,000		
発行済株式総数	12,000,000		
総株主の議決権		11,848	

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当半期報告書提出日までにおいて、役員の異動はありません。

第5 【経理の状況】

1 中間連結財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の中間連結財務諸表は、「中間連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成11年大蔵省令第24号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間（2022年12月1日から2023年5月31日まで）の中間連結財務諸表及び中間会計期間（2022年12月1日から2023年5月31日まで）の中間財務諸表について、新月有限責任監査法人により中間監査を受けております。

なお、当社の監査人は次のとおり交代しております。

第114期連結会計年度の連結財務諸表及び第114期事業年度の財務諸表 EY新日本有限責任監査法人

第115期中間連結会計期間の中間連結財務諸表及び第115期中間会計期間の中間財務諸表 新月有限責任監査法人

1 【中間連結財務諸表等】

(1) 【中間連結財務諸表】

【中間連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当中間連結会計期間 (2023年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1 9,889,857	1 12,526,296
受取手形及び売掛金	4,440,638	3,968,763
棚卸資産	204,114	219,685
その他	710,812	873,523
貸倒引当金	19,658	17,658
流動資産合計	15,225,764	17,570,610
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	31,978,251	32,053,399
減価償却累計額	17,422,283	17,778,574
建物及び構築物（純額）	14,555,968	14,274,825
機械装置及び運搬具	10,478,875	10,532,913
減価償却累計額	4,962,319	5,292,589
機械装置及び運搬具（純額）	5,516,555	5,240,324
工具、器具及び備品	1,410,849	1,423,763
減価償却累計額	1,061,697	1,108,059
工具、器具及び備品（純額）	349,152	315,704
土地	20,724,974	20,724,974
リース資産	3,075,473	3,036,256
減価償却累計額	2,652,581	2,659,211
リース資産（純額）	422,891	377,045
建設仮勘定	190	19,433
有形固定資産合計	1,2 41,569,732	1,2 40,952,307
無形固定資産	823,048	747,718
投資その他の資産		
投資有価証券	1,419,434	1,425,089
繰延税金資産	120,944	19,886
その他	896,654	689,575
貸倒引当金	40,581	40,581
投資その他の資産合計	2,396,451	2,093,970
固定資産合計	44,789,232	43,793,995
資産合計	60,014,996	61,364,605

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当中間連結会計期間 (2023年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1 2,849,515	1 2,650,700
短期借入金	1 3,879,564	1 3,991,954
リース債務	335,507	331,169
未払費用	306,785	2,022,144
未払法人税等	333,253	352,632
未払金	1,021,532	776,880
その他	2,166,533	2,631,429
流動負債合計	10,892,691	12,756,911
固定負債		
長期借入金	1 17,043,389	1 17,457,558
リース債務	560,759	426,317
役員退職慰労引当金	354,551	291,562
退職給付に係る負債	2,199,543	2,243,655
受入保証金	2,663,713	2,664,544
長期未払金	340,625	371,925
その他	40,480	132,902
固定負債合計	23,203,062	23,588,464
負債合計	34,095,753	36,345,375
純資産の部		
株主資本		
資本金	600,000	600,000
資本剰余金	262,818	274,282
利益剰余金	22,463,951	21,500,459
株主資本合計	23,326,769	22,374,742
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	376,386	383,685
繰延ヘッジ損益	2,961	2,457
退職給付に係る調整累計額	167,474	143,230
その他の包括利益累計額合計	546,822	524,458
非支配株主持分	2,045,651	2,120,029
純資産合計	25,919,243	25,019,230
負債純資産合計	60,014,996	61,364,605

【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当中間連結会計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
売上高	19,134,634	18,571,260
売上原価	14,144,025	14,604,091
売上総利益	4,990,608	3,967,169
販売費及び一般管理費	1 3,493,628	1 3,465,889
営業利益	1,496,980	501,279
営業外収益		
受取利息	205	380
受取配当金	30,040	32,889
受取保険金	28,019	46,783
補助金収入	30,029	25,955
雇用調整助成金	9,864	818
持分法による投資利益	253	621
貸倒引当金戻入額	2,755	1,991
その他	22,418	17,111
営業外収益合計	123,586	126,552
営業外費用		
支払利息	96,707	85,246
支払手数料	2,000	2,000
その他	601	34
営業外費用合計	99,309	87,281
経常利益	1,521,257	540,550
特別利益		
固定資産売却益	2 748	2 1,402
特別利益合計	748	1,402
特別損失		
固定資産除却損	3 30,784	3 1,152
割増退職金	-	930,817
特別損失合計	30,784	931,969
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失()	1,491,221	390,017
法人税、住民税及び事業税	421,341	247,642
法人税等調整額	32,734	206,992
法人税等合計	454,075	454,635
中間純利益又は中間純損失()	1,037,145	844,652
非支配株主に帰属する中間純利益	86,419	88,839
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失()	950,726	933,491

【中間連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2021年12月 1 日 至 2022年 5月31日)	当中間連結会計期間 (自 2022年12月 1 日 至 2023年 5月31日)
中間純利益又は中間純損失()	1,037,145	844,652
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	57,414	5,240
繰延ヘッジ損益	18,606	5,418
退職給付に係る調整額	17,546	24,244
その他の包括利益合計	58,474	24,422
中間包括利益	1,095,620	869,075
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,004,344	955,855
非支配株主に係る中間包括利益	91,275	86,780

【中間連結株主資本等変動計算書】

前中間連結会計期間(自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	600,000	262,818	21,060,526	21,923,344
会計方針の変更による累積的影響額			196,915	196,915
会計方針の変更を反映した当期首残高	600,000	262,818	21,257,442	22,120,260
当中間期変動額				
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動				
剰余金の配当			30,000	30,000
親会社株主に帰属する中間純利益			950,726	950,726
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)				
当中間期変動額合計			920,726	920,726
当中間期末残高	600,000	262,818	22,178,168	23,040,986

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	272,775	39,732	285,226	518,268	1,919,767	24,361,381
会計方針の変更による累積的影響額						196,915
会計方針の変更を反映した当期首残高	272,775	39,732	285,226	518,268	1,919,767	24,558,297
当中間期変動額						
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						
剰余金の配当						30,000
親会社株主に帰属する中間純利益						950,726
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	52,558	18,606	17,546	53,618	91,234	144,853
当中間期変動額合計	52,558	18,606	17,546	53,618	91,234	1,065,579
当中間期末残高	325,333	21,125	267,679	571,887	2,011,002	25,623,877

当中間連結会計期間(自 2022年12月 1日 至 2023年 5月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	600,000	262,818	22,463,951	23,326,769
会計方針の変更による累積的影響額				
会計方針の変更を反映した当期首残高	600,000	262,818	22,463,951	23,326,769
当中間期変動額				
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		11,464		11,464
剰余金の配当			30,000	30,000
親会社株主に帰属する中間純損失()			933,491	933,491
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)				
当中間期変動額合計		11,464	963,491	952,027
当中間期末残高	600,000	274,282	21,500,459	22,374,742

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	376,386	2,961	167,474	546,822	2,045,651	25,919,243
会計方針の変更による累積的影響額						
会計方針の変更を反映した当期首残高	376,386	2,961	167,474	546,822	2,045,651	25,919,243
当中間期変動額						
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						11,464
剰余金の配当						30,000
親会社株主に帰属する中間純損失()						933,491
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	7,298	5,418	24,244	22,364	74,378	52,014
当中間期変動額合計	7,298	5,418	24,244	22,364	74,378	900,013
当中間期末残高	383,685	2,457	143,230	524,458	2,120,029	25,019,230

【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当中間連結会計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失()	1,491,221	390,017
減価償却費	910,458	988,014
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,755	2,000
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	95,970	62,989
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	2,244	9,227
受取利息及び受取配当金	30,245	33,269
補助金収入	30,029	25,955
支払利息	96,707	85,246
持分法による投資損益(は益)	253	621
固定資産売却損益(は益)	748	1,402
固定資産除却損	30,784	1,152
割増退職金	-	930,817
売上債権の増減額(は増加)	29,051	471,875
棚卸資産の増減額(は増加)	2,463	15,570
仕入債務の増減額(は減少)	238,358	198,815
未払消費税等の増減額(は減少)	76,017	71,231
未収消費税等の増減額(は増加)	16,495	-
受入保証金の増減額(は減少)	3,103	832
その他	763,501	988,143
小計	2,954,450	2,815,898
利息及び配当金の受取額	30,685	33,601
利息の支払額	99,135	85,698
補助金の受取額	30,029	25,955
法人税等の還付額	-	43,231
法人税等の支払額	405,227	244,491
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,510,803	2,588,497
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	111,200	111,200
定期預金の預入による支出	110,600	110,600
有形固定資産の売却による収入	748	4,850
有形固定資産の取得による支出	1,028,833	373,915
投資有価証券の取得による支出	600	600
その他	124,816	98,306
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,152,902	270,759

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当中間連結会計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	5,004	1,004
長期借入れによる収入	2,000,000	2,500,000
長期借入金の返済による支出	2,158,976	1,972,437
ファイナンス・リース債務の返済による支出	172,560	169,097
セールアンド割賦バック取引による支出	5,222	5,222
親会社による配当金の支払額	30,000	30,000
非支配株主への配当金の支払額	40	38
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	600	900
その他	2,000	2,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	374,403	319,300
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	983,497	2,637,039
現金及び現金同等物の期首残高	10,821,045	9,218,929
現金及び現金同等物の中間期末残高	11,804,543	11,855,968

【注記事項】

(中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 11社

連結子会社の名称

(株)ラジオ関西、神戸新聞興産(株)、(株)神戸新聞輸送センター、(株)神戸新聞事業社、(株)神戸新聞総合印刷、(株)京阪神エルマガジン社、(株)デイリースポーツ、(株)神戸新聞会館、(株)サンテレビジョン、(株)神戸新聞総合折込、(株)デイリースポーツ・クオリティ

(2) 主要な非連結子会社名

(株)神戸新聞神戸中央販売

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、中間純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも中間連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社数 1社

会社名

(株)サン神戸映画社

(2) 持分法を適用した関連会社数 0社

(3) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称

(株)神戸新聞神戸中央販売

持分法を適用しない理由

持分法非適用会社は、それぞれ中間純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても中間連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

(4) 持分法の適用の手続きについて特に記載する必要があると認められる事項

持分法を適用した非連結子会社は、3月31日決算であるが、3月31日に実施した決算に基づき持分法を適用しております。

3 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社の中間決算日は、(株)ラジオ関西及び(株)サンテレビジョン並びに(株)神戸新聞総合折込が9月30日であり、その他はすべて5月31日であります。(株)ラジオ関西及び(株)サンテレビジョン並びに(株)神戸新聞総合折込については、3月31日に決算を実施しており、中間連結財務諸表の作成にあたっては同決算日現在の中間財務諸表を使用しており、中間連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、中間連結上調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

棚卸資産

主として先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降取得の建物(建物附属設備を除く)、2016年4月1日以降取得の建物附属設備及び構築物並びに阪神製作センター、播磨製作センター、デイリースポーツ東京本ビル、(株)サンテレビジョン、(株)神戸新聞総合折込の有形固定資産については定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物及び構築物 3～60年

機械装置及び運搬具 2～20年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

中間連結財務諸表提出会社及び連結子会社は、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく中間期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間連結会計期間末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日連結会計年度から費用処理することとしております。

小規模企業等における簡便法の採用

中間連結財務諸表提出会社におけるエリア職員及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る中間期末要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社グループの顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

新聞・雑誌・書籍等の発行印刷・販売業

新聞・雑誌・書籍等の発行印刷・販売業は、神戸新聞等日刊紙、デイリースポーツ等スポーツ紙などの印刷及び販売並びに神戸新聞NEXT、デイリー電子版などの電子情報サービスを行っております。同事業においては、各種新聞に関する財又はサービスを顧客に提供した時点で収益を認識しております。なお、一部の販売諸費については変動対価として売上高から控除する方法に、また、顧客への財又はサービスの提供における役割（本人又は代理人）を判断した結果、代理人取引と判断したものについては純額で収益を認識する方法によっております。さらに返品権付きの販売について、返品されると見込まれる製品については変動対価に関する定めに従って予想される返品部分を合理的に見積り、収益を認識しております。

放送業

放送業は、主にテレビ番組及びラジオ番組の企画制作並びに放送を行っております。同事業においては、放送を行った時点で収益を認識しております。なお、顧客への財又はサービスの提供における役割（本人又は代理人）を判断した結果、代理人取引と判断したものについては純額で収益を認識する方法によっております。

貸室業

貸室業は、オフィスビルや商業施設等の賃貸等を行っております。同事業においては、契約上の条件が履行された時点で履行義務が充足されていると判断し、当該時点で収益を認識しております。

なお、賃貸取引については「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号 2007年3月30日）の範囲に含まれるリース取引として、収益を認識しております。

その他の事業

その他の事業は、海外旅行及び国内旅行の手配・企画・販売並びに当社グループを中心顧客としたビル管理業務を行っております。同事業においては、旅行及びビル管理に関する財又はサービスを顧客に提供した時点で収益を認識しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、金利スワップについて特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

イ) ヘッジ手段

金利スワップ

ロ) ヘッジ対象

長期借入金の利息

ヘッジ方針

当グループのリスク管理方針に基づき金利変動リスクをヘッジしております。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。

ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(7) 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高く、容易に換金可能で、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(中間連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

(1) 担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当中間連結会計期間 (2023年5月31日)
定期預金	57,000千円	57,000千円
建物及び構築物	11,774,683	11,550,546
土地	16,988,721	16,988,721
計	28,820,404	28,596,267

(2) 担保資産に対応する債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当中間連結会計期間 (2023年5月31日)
買掛金	1,870千円	2,323千円
短期借入金	1,295,794	1,291,984
長期借入金	10,304,888	10,034,641
計	11,602,552	11,328,948

2 国庫補助金等により固定資産の取得価額から控除した圧縮記帳累計額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当中間連結会計期間 (2023年5月31日)
建物及び構築物	2,810千円	2,810千円
機械装置及び運搬具	68,613	68,613

(中間連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要なものは次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当中間連結会計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
給与及び手当	1,651,149千円	1,603,083千円
退職給付費用	101,355	83,418
役員退職慰労引当金繰入額	53,496	41,877

2 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当中間連結会計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
機械装置及び運搬具	748千円	1,402千円

3 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当中間連結会計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
建物及び構築物	38千円	千円
機械装置及び運搬具	27,404	1,152
工具、器具及び備品	53	
その他	3,288	
計	30,784	1,152

(中間連結株主資本等変動計算書関係)

前中間連結会計期間(自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(千株)	当中間連結会計期間増加株式数(千株)	当中間連結会計期間減少株式数(千株)	当中間連結会計期間末株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	12,000			12,000
合計	12,000			12,000
自己株式				
普通株式				
合計				

2 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年2月25日 定時株主総会	普通株式	30,000	2.5	2021年11月30日	2022年2月28日

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間後となるもの

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(千株)	当中間連結会計期間増加株式数(千株)	当中間連結会計期間減少株式数(千株)	当中間連結会計期間末株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	12,000			12,000
合計	12,000			12,000
自己株式				
普通株式				
合計				

2 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年2月24日 定時株主総会	普通株式	30,000	2.5	2022年11月30日	2023年2月27日

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間後となるもの
該当事項はありません。

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

「現金及び現金同等物の中間期末残高」と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当中間連結会計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
現金及び預金勘定	12,474,871千円	12,526,296千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	670,327	670,327
現金及び現金同等物	11,804,543	11,855,968

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

新聞・雑誌・書籍等の発行印刷・販売業における印刷発送設備及び記憶装置(機械装置及び運搬具)であります。

(イ)無形固定資産

新聞・雑誌・書籍等の発行印刷・販売業におけるソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計方針に関する事項(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2 オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当中間連結会計期間 (2023年5月31日)
1年内	8,896	8,896
1年超	23,931	19,483
合計	32,827	28,379

(貸主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当中間連結会計期間 (2023年5月31日)
1年内	520,311	494,918
1年超	1,173,564	946,279
合計	1,693,875	1,441,197

(金融商品関係)

1 金融商品の時価等に関する事項

中間連結貸借対照表計上額（連結貸借対照表計上額）、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は、次表には含まれておりません（注）を参照ください。）。また、「現金及び預金」「受取手形及び売掛金」「支払手形及び買掛金」「短期借入金」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

前連結会計年度（2022年11月30日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 投資有価証券	1,003,809	1,003,809	
資産計	1,003,809	1,003,809	
(1) 長期借入金(*1)	20,790,953	20,650,288	140,664
負債計	20,790,953	20,650,288	140,664
デリバティブ取引(*2)	4,261	4,261	

(*1) 1年内返済予定の長期借入金については、長期借入金に含めて表示しております。

(*2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で表示しております。

当中間連結会計期間（2023年5月31日）

	中間連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 投資有価証券	1,008,843	1,008,843	
資産計	1,008,843	1,008,843	
(1) 長期借入金(*1)	21,318,516	21,136,443	182,072
負債計	21,318,516	21,136,443	182,072
デリバティブ取引(*2)	(3,535)	(3,535)	

(*1) 1年内返済予定の長期借入金については、長期借入金に含めて表示しております。

(*2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で表示しております。

(注) 市場価格のない株式等は、「(1) 投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の中間連結貸借対照表計上額（連結貸借対照表計上額）は以下のとおりであります。

区分	前連結会計年度(千円)	当中間連結会計期間(千円)
非上場株式	415,624	416,245

2 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で中間連結貸借対照表（連結貸借対照表）に計上している金融商品

前連結会計年度（2022年11月30日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	1,003,809			1,003,809
資産計	1,003,809			1,003,809
デリバティブ取引				
金利関連		4,261		4,261
デリバティブ取引計		4,261		4,261

当中間連結会計期間（2023年5月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	1,008,843			1,008,843
資産計	1,008,843			1,008,843
デリバティブ取引				
金利関連		3,535		3,535
デリバティブ取引計		3,535		3,535

(2) 時価で中間連結貸借対照表（連結貸借対照表）に計上している金融商品以外の金融商品

前連結会計年度（2022年11月30日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金		20,650,288		20,650,288
負債計		20,650,288		20,650,288

当中間連結会計期間（2023年5月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金		21,136,443		21,136,443
負債計		21,136,443		21,136,443

(注)時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価はレベル1の時価に分類しております。

デリバティブ取引

金利スワップの時価は、取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しているため、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。なお、このうち変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、時価は帳簿価額と近似していることから、帳簿価額を時価としております。

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(2022年11月30日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,003,807	385,976	617,831
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
	(3) その他			
	小計	1,003,807	385,976	617,831
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	2	4	1
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
	(3) その他			
	小計	2	4	1
合計		1,003,809	385,980	617,829

- (注) 1 非上場株式(連結貸借対照表計上額261,267千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。
- 2 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当中間連結会計期間（2023年5月31日）

	種類	中間連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
中間連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,008,841	386,576	622,265
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
	(3) その他			
	小計	1,008,841	386,576	622,265
中間連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	(1) 株式	2	4	2
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
	(3) その他			
	小計	2	4	2
合計		1,008,843	386,580	622,263

- (注) 1 非上場株式（中間連結貸借対照表計上額261,267千円）については、市場価格のない株式等であることから、上表の「其他有価証券」には含めておりません。
- 2 減損処理にあたっては、中間期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

当社グループが利用しているデリバティブ取引は、すべてヘッジ会計を適用しているため、記載すべき事項はありません。

(企業結合等関係)

重要性が低いため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の中間連結貸借対照表計上額及び中間連結決算日における時価に、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

1 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。なお、当該注記事項における売上高には、顧客との契約から生じる収益に加え、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号 2007年3月30日）等に基づく収益等が含まれております。

2 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

「注記事項（中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項） 4 会計方針に関する事項 （5）重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会において経営資源の配分の決定及び業績の評価をするため、定期的に検討を行う対象となっているものであります。当社グループは、各事業内容を基礎としたサービス別のセグメントから構成されており、日刊新聞の発行等を主たる事業とする「新聞・雑誌・書籍等の発行印刷・販売業」、テレビ・ラジオ放送を主たる事業とする「放送業」、不動産賃貸を主たる事業とする「貸室業」と旅行業・ビル管理業及びその他のサービス業を主たる事業とする「その他の事業」を報告セグメントとしております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報並びに収益の分解情報

前中間連結会計期間（自 2021年12月1日 至 2022年5月31日）

	報告セグメント				計 (千円)	調整額 (千円) (注) 1	中間連結財務 諸表計上額 (千円) (注) 2
	新聞・雑誌・ 書籍等の発行 印刷・販売業 (千円)	放送業 (千円)	貸室業 (千円)	その他の 事業 (千円)			
売上高							
顧客との契約 から生じる収益	15,006,801	2,642,435	244,105	85,044	17,978,387		17,978,387
その他の収益			1,156,246		1,156,246		1,156,246
外部顧客への 売上高	15,006,801	2,642,435	1,400,352	85,044	19,134,634		19,134,634
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	88,706	105,949	4,289	121,158	320,103	320,103	
計	15,095,507	2,748,385	1,404,641	206,203	19,454,737	320,103	19,134,634
セグメント利益 又は損失()	708,565	241,982	546,780	952	1,496,375	604	1,496,980
セグメント資産	37,927,768	11,407,174	20,480,335	747,310	70,562,590	7,908,426	62,654,163
その他の項目							
減価償却費	514,073	267,829	130,673	836	913,412	2,953	910,458
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	983,097	188,599	4,501	1,052	1,177,251		1,177,251

(注) 1 セグメント利益又は損失()の調整額604千円は、報告セグメントに配分できないものであり、セグメント資産の調整額 7,908,426千円、減価償却費の調整額 2,953千円は、セグメント間取引消去に伴うものであります。

2 セグメント利益又は損失()は中間連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当中間連結会計期間（自 2022年12月1日 至 2023年5月31日）

	報告セグメント				計 (千円)	調整額 (千円) (注) 1	中間連結財務 諸表計上額 (千円) (注) 2
	新聞・雑誌・ 書籍等の発行 印刷・販売業 (千円)	放送業 (千円)	貸室業 (千円)	その他の 事業 (千円)			
売上高							
顧客との契約 から生じる収益	14,252,557	2,783,135	295,068	103,882	17,434,644		17,434,644
その他の収益			1,136,616		1,136,616		1,136,616
外部顧客への 売上高	14,252,557	2,783,135	1,431,684	103,882	18,571,260		18,571,260
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	81,080	128,147	4,623	120,975	334,825	334,825	
計	14,333,638	2,911,282	1,436,307	224,857	18,906,086	334,825	18,571,260
セグメント利益 又は損失()	304,874	232,851	546,161	26,590	500,728	550	501,279
セグメント資産	36,580,335	11,182,721	20,599,825	797,449	69,160,332	7,795,726	61,364,605
その他の項目							
減価償却費	600,005	258,222	132,629	214	991,071	3,057	988,014
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	167,418	101,600	28,840		297,859		297,859

(注) 1 セグメント利益又は損失()の調整額550千円は、報告セグメントに配分できないものであり、セグメント資産の調整額 7,795,726千円、減価償却費の調整額 3,057千円は、セグメント間取引消去に伴うものであります。

2 セグメント利益又は損失()は中間連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前中間連結会計期間（自 2021年12月1日 至 2022年5月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の方法を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が中間連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当中間連結会計期間（自 2022年12月1日 至 2023年5月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の方法を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が中間連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前中間連結会計期間（自 2021年12月1日 至 2022年5月31日）

該当事項はありません。

当中間連結会計期間（自 2022年12月1日 至 2023年5月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前中間連結会計期間（自 2021年12月1日 至 2022年5月31日）

該当事項はありません。

当中間連結会計期間（自 2022年12月1日 至 2023年5月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前中間連結会計期間（自 2021年12月1日 至 2022年5月31日）

該当事項はありません。

当中間連結会計期間（自 2022年12月1日 至 2023年5月31日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎並びに1株当たり中間純利益金額又は1株当たり中間純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当中間連結会計期間 (2023年5月31日)
1株当たり純資産額	1,989.47円	1,908.27円
(算定上の基礎)		
純資産の部の合計額(千円)	25,919,243	25,019,230
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	2,045,651	2,120,029
(うち非支配株主持分(千円))	(2,045,651)	(2,120,029)
普通株式に係る中間期末(期末)の純資産額(千円)	23,873,592	22,899,200
1株当たり純資産額の算定に用いられた中間期末(期末)の普通株式の数(千株)	12,000	12,000

	前中間連結会計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当中間連結会計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
1株当たり中間純利益金額又は 1株当たり中間純損失金額()	79.23円	77.79円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益又は 親会社株主に帰属する中間純損失() (千円)	950,726	933,491
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益又は 親会社株主に帰属する中間純損失() (千円)	950,726	933,491
普通株式の期中平均株式数(千株)	12,000	12,000

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2 【中間財務諸表等】

(1) 【中間財務諸表】

【中間貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年11月30日)	当中間会計期間 (2023年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1 2,740,328	1 4,196,452
受取手形及び売掛金	2,110,424	1,975,318
棚卸資産	119,317	143,233
未収入金	39,448	51,325
その他	202,018	310,866
貸倒引当金	2,696	2,503
流動資産合計	5,208,842	6,674,693
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	5,401,276	5,232,687
機械及び装置（純額）	2,923,715	2,800,423
土地	7,894,441	7,894,441
リース資産（純額）	369,492	326,552
その他（純額）	267,347	250,430
有形固定資産合計	1 16,856,273	1 16,504,535
無形固定資産	674,377	601,553
投資その他の資産		
関係会社株式	7,416,389	7,417,289
繰延税金資産	114,419	-
その他	1,284,150	1,312,891
貸倒引当金	90,981	89,428
投資その他の資産合計	8,723,978	8,640,752
固定資産合計	26,254,628	25,746,841
資産合計	31,463,471	32,421,535

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年11月30日)	当中間会計期間 (2023年5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,566,344	1,348,230
短期借入金	¹ 2,932,916	¹ 3,048,100
リース債務	317,077	311,771
未払費用	104,310	1,788,677
未払法人税等	33,732	30,979
預り金	1,669,127	1,635,170
未払金	586,213	373,618
その他	113,260	² 116,959
流動負債合計	7,322,982	8,653,507
固定負債		
長期借入金	¹ 8,971,676	¹ 9,791,379
リース債務	518,857	389,774
退職給付引当金	724,809	764,414
役員退職慰労引当金	319,958	257,298
受入保証金	1,231,475	1,228,941
その他	243,835	370,896
固定負債合計	12,010,610	12,802,704
負債合計	19,333,593	21,456,211
純資産の部		
株主資本		
資本金	600,000	600,000
資本剰余金		
資本準備金	10,034	10,034
資本剰余金合計	10,034	10,034
利益剰余金		
利益準備金	111,700	114,700
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	544,122	372,733
繰越利益剰余金	10,627,788	9,613,804
利益剰余金合計	11,283,611	10,101,238
株主資本合計	11,893,646	10,711,273
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	236,231	254,051
評価・換算差額等合計	236,231	254,051
純資産合計	12,129,877	10,965,324
負債純資産合計	31,463,471	32,421,535

【中間損益計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2021年12月 1 日 至 2022年 5月31日)	当中間会計期間 (自 2022年12月 1 日 至 2023年 5月31日)
売上高	10,576,239	9,813,574
売上原価	7,793,140	7,978,604
売上総利益	2,783,098	1,834,969
販売費及び一般管理費	2,208,529	2,135,522
営業利益又は営業損失()	574,569	300,552
営業外収益		
受取利息	249	348
受取配当金	251,403	252,675
その他	54,144	69,628
営業外収益合計	305,797	322,652
営業外費用		
支払利息	48,909	41,821
営業外費用合計	48,909	41,821
経常利益又は経常損失()	831,457	19,721
特別損失	2,366	² 930,817
税引前中間純利益又は税引前中間純損失()	829,091	950,539
法人税、住民税及び事業税	185,000	2,000
法人税等調整額	16,219	199,834
法人税等合計	201,219	201,834
中間純利益又は中間純損失()	627,872	1,152,373

【中間株主資本等変動計算書】

前中間会計期間(自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)

(単位：千円)

	株主資本							株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計		固定資産 圧縮積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	600,000	10,034	10,034	108,700	559,752	9,944,612	10,613,064	11,223,099
会計方針の変更による累積的影響額						196,915	196,915	196,915
会計方針の変更を反映した当期首残高	600,000	10,034	10,034	108,700	559,752	10,141,527	10,809,980	11,420,015
当中間期変動額								
剰余金の配当						30,000	30,000	30,000
利益準備金の積立				3,000		3,000		
固定資産圧縮積立金の取崩					7,814	7,814		
中間純利益						627,872	627,872	627,872
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)								
当中間期変動額合計				3,000	7,814	602,686	597,872	597,872
当中間期末残高	600,000	10,034	10,034	111,700	551,937	10,744,214	11,407,852	12,017,887

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	174,632	174,632	11,397,731
会計方針の変更による累積的影響額			196,915
会計方針の変更を反映した当期首残高	174,632	174,632	11,594,647
当中間期変動額			
剰余金の配当			30,000
利益準備金の積立			
固定資産圧縮積立金の取崩			
中間純利益			627,872
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	33,531	33,531	33,531
当中間期変動額合計	33,531	33,531	631,403
当中間期末残高	208,163	208,163	12,226,050

当中間会計期間(自 2022年12月 1日 至 2023年 5月31日)

(単位：千円)

	株主資本							株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
				固定資産 圧縮積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	600,000	10,034	10,034	111,700	544,122	10,627,788	11,283,611	11,893,646
会計方針の変更による累積的影響額								
会計方針の変更を反映した当期首残高	600,000	10,034	10,034	111,700	544,122	10,627,788	11,283,611	11,893,646
当中間期変動額								
剰余金の配当						30,000	30,000	30,000
利益準備金の積立				3,000		3,000		
固定資産圧縮積立金の取崩					171,388	171,388		
中間純損失()						1,152,373	1,152,373	1,152,373
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)								
当中間期変動額合計				3,000	171,388	1,013,984	1,182,373	1,182,373
当中間期末残高	600,000	10,034	10,034	114,700	372,733	9,613,804	10,101,238	10,711,273

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	236,231	236,231	12,129,877
会計方針の変更による累積的影響額			
会計方針の変更を反映した当期首残高	236,231	236,231	12,129,877
当中間期変動額			
剰余金の配当			30,000
利益準備金の積立			
固定資産圧縮積立金の取崩			
中間純損失()			1,152,373
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	17,819	17,819	17,819
当中間期変動額合計	17,819	17,819	1,164,553
当中間期末残高	254,051	254,051	10,965,324

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) 棚卸資産

先入先出法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降取得の建物（建物附属設備を除く）、2016年4月1日以降取得の建物附属設備及び構築物並びに阪神製作センター、播磨製作センター、デイリースポーツ東京本部ビルの有形固定資産については定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 3～50年

機械及び装置 2～20年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

3 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。なお、従業員のうちエリア職社員については、内規に基づく中間期末要支給額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく中間期末要支給額を計上しております。

4 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

新聞・雑誌・書籍等の発行印刷・販売業

新聞・雑誌・書籍等の発行印刷・販売業は、神戸新聞等日刊紙、デイリースポーツ等スポーツ紙などの印刷及び販売並びに神戸新聞NEXT、デイリー電子版などの電子情報サービスを行っております。同事業においては、各種新聞に関する財又はサービスを顧客に提供した時点で収益を認識しております。なお、一部の販売諸費については変動対価として売上高から控除する方法に、また、顧客への財又はサービスの提供における役割（本人又は代理人）を判断した結果、代理人取引と判断したものについては純額で収益を認識する方法によっております。さらに返品権付きの販売について、返品されると見込まれる製品については変動対価に関する定めに従って予想される返品部分を合理的に見積り、収益を認識しております。

貸室業

貸室業は、商業施設等の賃貸等を行っております。同事業においては、契約上の条件が履行された時点で履行義務が充足されていると判断し、当該時点で収益を認識しております。

なお、賃貸取引については「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号 2007年3月30日）の範囲に含まれるリース取引として、収益を認識しております。

5 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、金利スワップについて特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

金利スワップ

ヘッジ対象

長期借入金の利息

(3) ヘッジ方針

当社のリスク管理方針に基づき金利変動リスクをヘッジしております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップの特例処理の要件を充たしているため、有効性の評価を省略しております。

6 その他中間財務諸表作成のための重要な事項

退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、中間連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(中間貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前事業年度 (2022年11月30日)	当中間会計期間 (2023年5月31日)
定期預金	50,000千円	50,000千円
建物	3,080,334	2,978,074
土地	5,656,717	5,656,717
計	8,787,052	8,684,791

担保付債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (2022年11月30日)	当中間会計期間 (2023年5月31日)
短期借入金	645,794千円	641,984千円
長期借入金	3,273,638	3,328,391
計	3,919,432	3,970,375

2 消費税等の取扱い

当中間会計期間において仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、流動負債の「その他」に含めて表示しております。

(中間損益計算書関係)

1 減価償却実施額

	前中間会計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当中間会計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
有形固定資産	456,242千円	449,899千円
無形固定資産	132,178	131,281

2 特別損失の主要項目は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当中間会計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
割増退職金	千円	930,817千円

(有価証券関係)

子会社株式(前事業年度の貸借対照表計上額7,416,389千円 当中間会計期間の中間貸借対照表計上額7,417,289千円)は、市場価格のない株式等のため、時価を記載しておりません。

(企業結合等関係)

重要性が低いため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

「顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報」については、中間連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の参考情報】

当中間会計期間の開始日から半期報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第114期）（自 2021年12月1日 至 2022年11月30日）

2023年2月24日 近畿財務局長に提出。

(2) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の4（監査公認会計士等の異動）の規定に基づく
臨時報告書

2022年12月22日 近畿財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間監査報告書

2023年8月25日

株式会社神戸新聞社
取締役会 御中

新月有限責任監査法人 大阪府大阪市

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岡本光弘

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中西宏二

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社神戸新聞社の2022年12月1日から2023年11月30日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2022年12月1日から2023年5月31日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結株主資本等変動計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書、中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社神戸新聞社及び連結子会社の2023年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間（2022年12月1日から2023年5月31日まで）の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の事項

会社の2022年11月30日をもって終了した前連結会計年度の中間連結会計期間に係る中間連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって中間監査及び監査が実施されている。前任監査人は、当該中間連結財務諸表に対して2022年8月25日付けで無限定有用意見を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して2023年2月24日付けで無限定適正意見を表明している。

中間連結財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間連結財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間連結財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間連結財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間連結財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。
- ・ 中間連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の中間監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で中間監査意見に対して責任を負う。
監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記の中間監査報告書の原本は当社（半期報告書提出会社）が別途保管しております。
 - 2 X B R L データは中間監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2023年 8月25日

株式会社神戸新聞社
取締役会 御中

新月有限責任監査法人
大阪府大阪市

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岡本光弘

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中西宏二

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社神戸新聞社の2022年12月1日から2023年11月30日までの第115期事業年度の中間会計期間（2022年12月1日から2023年5月31日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社神戸新聞社の2023年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2022年12月1日から2023年5月31日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の事項

会社の2022年11月30日をもって終了した前事業年度の中間会計期間に係る中間財務諸表及び前事業年度の財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって中間監査及び監査が実施されている。前任監査人は、当該中間財務諸表に対して2022年8月25日付けで無限定有用意見を表明しており、また、当該財務諸表に対して2023年2月24日付けで無限定適正意見を表明している。

中間財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記の中間監査報告書の原本は当社（半期報告書提出会社）が別途保管しております。
 - 2 X B R L データは中間監査の対象には含まれていません。